



今年も広島新生学園のお子さんたちへ クリスマスプレゼントを 皆さまのお気持ちと一緒にお届けします。



今年で三度目のクリスマスを前に、少しずつ進化しているこの活動のことを丁寧にお話しさせていただきます。長くなることをお許し願います。

大人になったら仕事以外でも 社会の役に立ちたい

江田島荘は、「こころと身体を元気にする温泉宿」として二〇二一年に開業しました。有難いことに三十歳になって間もない私がこの宿の主(あるじ)のお役目を賜ることになりました。大人になつたら仕事以外でも社会の役に立ちたい。」と語っていたのですが、総支配人になることが決まった時、いよいよ大人になる日が来たという気がしました。しかし、いざとなるとなかなか自分なりに筋が通った社会活動に辿り着くことができていませんでした。自分は、寄附がしたいのだろうか、売名行為に思われるのではないだろうか、どういう未来図を描いたら永く継続していける活動になるだろうか、明快な答えが出ないまま時間だけが流れていきました。

新生学園との出会い そして上栗園長との出会い

立ち止まったままではいけないと思っていたところ、ニュース番組で広島新生学園の特集を目にしました。引き寄せられるように飛んで行き、上栗園長にお話を伺ったところ、クリスマスを前にたりしました。二年目からは、賛同してくださる方の中に「お返しは要らないからずっと続けてね。」と仰ってくださる方も増えました。

シェフたちの賛同で ランチ体験を

さて、三年目にもなる程度、活動の形は整ってききましたので、お子さんたちのことをより一層考えながら継続していくにはどうしていけばよいかと考え始めた時、江田島荘レストラン LOGAVORO (ロカヴォーレ)の廣松料理長から「新生学園のお子さんたちに江田島荘でのランチをプレゼントしたい」という申し出がありました。お子さんにとってホテルでの外食が楽しいひと時だと受け留めてもらえるのだとしたら、私もワクワクしてきました。同時に、私にはできない「ゼロから人の喜びを創ること、つまり食材から料理を生み出すこと」ができる料理長が羨ましいとつくづく思いました。

料理をしている姿を 見せてあげたい

同時にお子さんたちの人生の選択肢として、廣松シェフのようにモノを生み出せる職業があるということを知ってもらい、この職業をこれから選択していく中のひとつに入れてもらえるならば、ランチを食べてもらおうとだけでなく、

サンタさんにプレゼントをお願いする機会がないお子さんたちがいることを知りました。

ふと、三人兄弟の末っ子だった私に与えられる「おもちゃ」や「洋服」の思い出が頭によぎりました。いつも兄たちのお下がりばかりで、「私のために準備されたギフト」というものを貰った記憶がありませんでした。しかし、小学二年生を迎えたクリスマス朝、目を覚ますと枕元に当時一番欲しかった「手のひらピカチュー」が置いてあり、心から喜んだことを今でも鮮明に覚えています。それが私の原体験となり、将来、自分の子どもに巡り合うことができれば、「素直な心で願ったことが叶う喜び」を味あわせてあげたいと想っていました。

「手のひらピカチュー」の感動から二〇年以上経ち、毎年クリスマスがやってくる度に息子が願うギフトを、サンタさんに代わって贈ることが我が家の恒例行事となつた頃に、上栗園長や新生学園のお子さんたちとの出会いが訪れました。

園長のお父様が開設された児童養護施設で沢山のお子さんと一緒に育ち、七十五歳の現在は、六〇人以上のお子さんたちの親父を務め、かくしゃくとしていらつしやる姿に、微力ながら何かお手伝いしたいと思いました。

園長と話を重ねる中で児童養護施設の実態について教えていただき、これまで知らなかった事実が熱くなることもありました。クリスマスに話が及ぶと「地元の奉仕団体からいただけるお菓

お子さんたちにとって貴重な体験になるのではないかと思います。カッコいいシェフが料理を作っている時の真剣なまなざしや、お料理を仕上げる優しい手の動きを見せてあげたい。そして、そのシェフが作る絶品のお皿を食べてもらいたい。そんな想いに駆られました。

廣松料理長も私の想いに共感し、各界でご活躍中の先輩や仲間にも声を掛けてくれました。江田島から離れたところにいるシェフの皆さんから「快諾いただき、夢のようなランチ体験をお子さんたちにお届けできることとなりました。冒頭でお断りした通り非常に長文になりましたが、今回はお子さんたちのクリスマスの願いを叶えることとフレンチランチ体験の食材費を捻出することを目標としました。これからもその年々の自分や仲間の成長に合った、いろいろな想いを込めて継続していくつもりです。是非、活動の趣旨をご理解いただき、多くの方からのご協力をお待ち申し上げます。 二〇二四年 仲秋



江田島荘 総支配人

阿部直樹



子がこの子どもたちにとってのクリスマスプレゼントです。」とご説明されました。奉仕団体の方々が継続してこられたことへの尊敬の念を抱きながらもこの事実が私の原体験と重なり、その場で「私にも何かお手伝いさせてください。」と伝え、創意工夫しながらこの活動がスタートしました。

願ったことが叶うという 小さな原体験へ


一歩踏み出すにあたり、寄附金を渡すだけではなく、「お子さんたちが遠慮することなく、無邪気に何かを望み、それが実現するという機会を創ること」にチャレンジしてみようと思えました。大切なのは、お子さんたちから叶えてみたいことや欲しいものを引き出し、それを

と一緒に暮らしています。「児童の人権を尊重・理解し、児童の秘められた可能性を発見助長する」を養護方針として、職員の方々は住み込みフレックスタイム制で子どもと生活しています。また、両翼80mのグラウンドでは毎日園内での子どもたちと職員で野球やバレーボールで汗を流したり、地元の連盟チームと試合をするなどスポーツによる集団指導により協調性、遵法性・責任感・忍耐力を高め、体力と礼節の増進を図っています。平日は学校に通い、園内では一つの大家族のように子どもたちと職員が過ごしています。


広島新生学園とは

原爆投下の2ヶ月半後に開設された児童養護施設で、広島県内に13施設ある児童養護施設のうち、2番目に歴史ある施設です。原爆孤児、戦災孤児、引揚孤児等の収容保護を目的として、広島市南区宇品長久陸軍砲部隊の兵舎の一部を借りるところから歴史がはじまります。昭和46年4月に現在の東広島市西条町に移転し、開設から79年、引揚孤児300名、原爆孤児、戦災孤児、及び一般養護児童1,800名、合計2,100名を養護し現在に至ります。今日も虐待を受けたり、何らかの理由で親と生活が出来ない2歳から18歳までの65人


ご協力いただいた方のお声



クリスマスソングが耳に届くころ、江田島荘のことを思い出すようになりました。元気な間は協力したいので、続けてください。(70代女性)



自分一人だけの力では何もしてあげられないと思っていただけども、この取り組みに参加することで役に立てていると実感できて嬉しい。(60代男性)

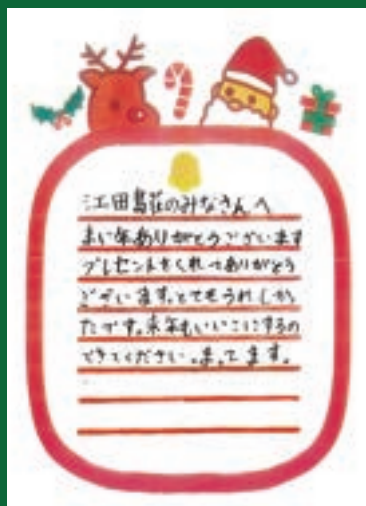
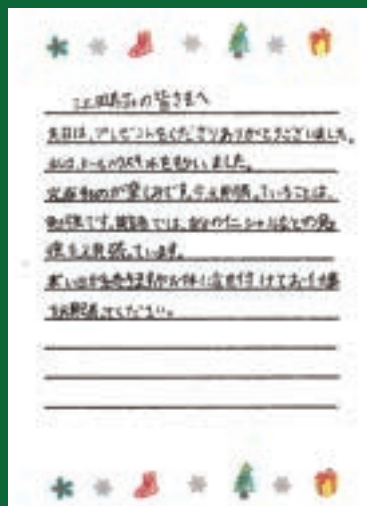
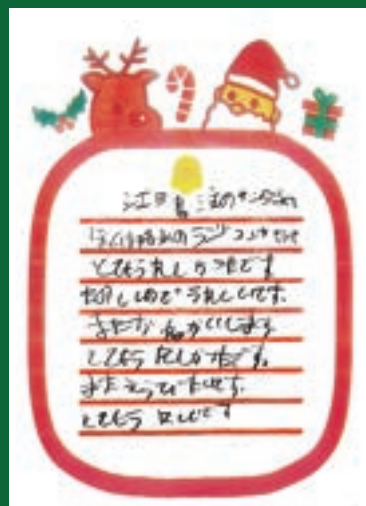
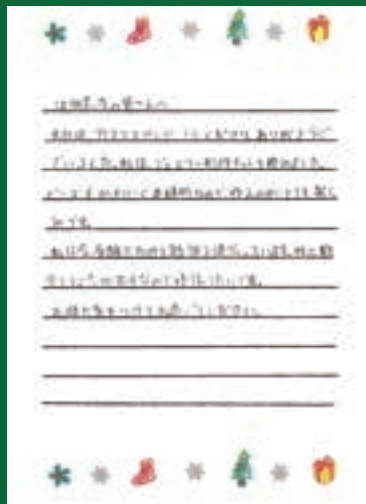
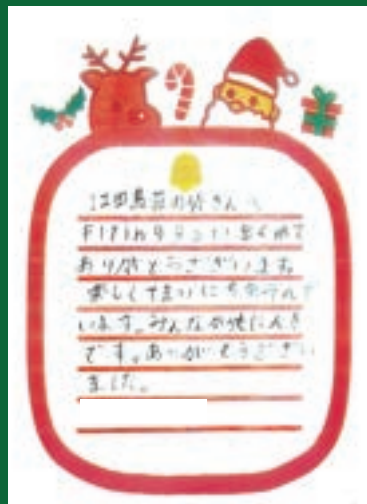
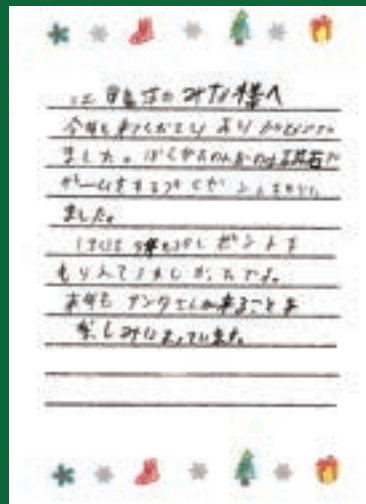


江田島荘のSNSを通してこの活動を知り、参加させてもらいました。自分にも子どもがいますが、何かしらお友だちのためになればと思っています。(30代女性)

江田島から子どもたちへ「愛」を届けるアイランドプロジェクト



ISLAND



2022年よりこの活動をスタートし、広島新生学園の上栗園長と職員の方々の皆さまのご理解のもと、サンタに扮して一人ひとりにプレゼントを手渡ししてまいりました。
2022年71件522,950円、2023年には84件530,000円のご寄附をお気持ちとともにお預かりしました。
この年、62名のお子さんたちへ、広島で活動しているエレクトーン奏者の生演奏もプレゼントすることができました。
2024年はこの活動を江田島から子どもたちへ「愛」を届ける「アイランドプロジェクト」と名付け、永く続けていこうと心に誓いました。

ご寄附のお願い

江田島荘では、広島新生学園のお子さんたちのクリスマスプレゼント費用とランチ会に充てるご寄附（一口5,000円）を募っています。
お預かりしたご寄附から、お子さんが「サンタさんに欲しいとお願いしたプレゼント」をお届けいたします。
また、今年は各界でご活躍のシェフの方々によるランチ会も開催いたします。

期 間：2024年9月13日（金）～2024年12月23日（月）
ご寄附の方法：別紙の寄附フォームを記入の上、江田島荘フロントまでお持ちください。

各界でご活躍のシェフによるランチ会 & クリスマスプレゼント

皆さまのお気持ちと一緒にお届けします

本年はこれまでの取組みに加え、これから将来を考える新生学園のお子さんたちの「職業の選択」が広がる事を願い、お子さんたちを招いたランチ会を10月13日（日）に江田島荘で開催いたします。
シェフが目の前で振る舞う料理を体験する事で、「料理」や「サービス」の職業が将来の選択肢の一つとなり、お子さんたちの可能性が広がればと考えております。
当日は、本活動にご賛同いただいた以下のシェフの方々によってランチ会が開催されます。



本活動にご賛同いただいたシェフの方々



井樋 雅之（いひ まさゆき）
シエラトン沖縄料飲顧問
ベルギーのミシュラン3つ星「ブリューノ」を皮切りに、2つ星「モン、マネージュ・ア・トア」2つ星「レカイエー・デュ・パレ・ロワイヤル」、フランスパリに移り2つ星「フォー・ジュロン」を経て1991年帰国。国内ホテルの総料理長歴任後、2019年10月に現職に着任。



大東 和彦（だいとう かずひこ）
SINAE シェフ
フランシュコンテ地方シャトー・ド・ヴォシュ、パリのヴィオロンダンクル、レガール、タイユヴァン、2008年大阪のルコントワールドプロフワで総料理を務め、2012年大阪北浜にエッサンシエルを独立オープン。2022年10月シナエをオープンし、2024年ミシュラン1つ星を獲得。



星野 大志（ほしの だいし）
LAVAROCK 神谷町料理長
地元、千葉のベーカリーで仕事をはじめ、フランス料理店で料理の基礎を学び、都内や千葉県での結婚式場にて料理長、都内フランス料理店にて副料理長、レストランバーやイタリア料理店などで料理長として活躍。2017年より【LAVAROCK 神谷町】料理長に就任。



廣松 昂是（ひろまつ たかし）
江田島荘 locavore 料理長
福岡県宗像市の創作料理レストランでキャリアをスタートし、東京、福岡で修業を積み、24歳で沖縄県古宇利島のリゾートホテル「One Suite Restaurant L Lota」でシェフを歴任。2022年3月に江田島に移住し、2022年12月より現職に就任。



寄附フォーム

期間

2024年9月13日(金)～2024年12月23日(月)

お名前 _____

ご住所 〒 _____

お電話 _____

E-mail _____ @ _____

寄附額 ¥ _____ (一口：¥5,000× _____ 口)

返礼品について

本活動への参加に際しての江田島荘からの返礼品についてチェックをお願いいたします。

希望する 希望しない

ご記入後、江田島荘フロントまでお持ちください。

預かり証

年 月 日

様

¥ _____ (一口¥5,000× _____ 口)

印



江田島荘 ISLAND プロジェクトへのご寄附として下記金額お預かりしました。
ご寄附いただいた皆さまへは、後日、活動の様子がわかるお手紙をお届けします。